体験活動を生かすなどの指導の充実

1　なぜ、体験活動を生かすことが大切なのでしょうか？

　最終的なねらいは体験を通して児童生徒の内面に根ざした道徳性を育成することです。直接的には、体験を生かすことで価値についての関心を深め問題意識を高めることができるからです。

2　どのような体験を、どのような価値の指導に生かすことが考えられますか？

　例えば、ボランティア活動で地域のゴミ拾い等が計画した場合、その活動で児童生徒は**「勤労・奉仕（小学校低中学年4－（2）、高学年4－（4）、中学校4－（5））」**という価値に触れることが考えられます。また、お年寄りが入所している施設を訪問する場合は**「思いやり（小学校2－（2）、中学校2－（2））」**に、自然体験活動では**「自然や崇高なものとのかかわりに関すること全般（3－（1）、（2）、（3））」**に、集団宿泊活動（小）では、協力する体験、交流する体験、自然に親しむ体験など、計画された活動や宿泊を伴った集団生活の中で多様な価値に触れることが考えられます。

3　具体的にはどのよう方法がありますか？

　中心となる資料とは別に、展開後段の自分自身の生活を振り返る場面で、実際に学級全員が体験した内容を話合いに生かす方法や、学級で実際に体験したことを題材とした児童生徒の作文を中心的な資料として扱うことも考えられます。

　こうすることで、児童生徒が道徳的価値について、より自分のこととして考えることができるようになり、道徳的価値の自覚を深める指導を充実させることができます。

4　体験を生かすときに、気をつけなければならないことは何ですか?

道徳の時間で、「集団宿泊活動（小）」、「職場体験活動（中）」、「ボランティア活動」、「自然体験活動」などの直接的な体験活動そのものを行うのではないので気をつけましょう。道徳の時間は、体験活動を踏まえて児童生徒が様々な道徳的価値に気付きその意味や大切さについて考えを深める要の時間です。

5　では、道徳の時間には体験的な活動は一切実施してはいけないのですか?

道徳の時間そのもので上記のような直接的な体験を行うことは適切ではありませんが、道徳の時間に行う体験として以下の例が挙げられていますので、指導方法の工夫という意味から積極的に取り上げてほしいと思います。

①　日常の体験を想起し実感を深めやすい資料（小）
　　体験したことの実感を深めやすい資料（中）
②　体験を想起して発表することができるような発問（小）
　　生徒が日常の体験を想起する問いかけ（中）
③　実物の観察等を生かした活動（小）
　　実物の観察や実験等を生かした活動（中）
④　コミュニケーションを深める活動（小）
　　対話を深める活動（中）
⑤　車椅子体験やアイマスク体験などの模擬体験や役割演技等の表現活動（小）
　　車椅子体験やアイマスク体験などの模擬体験や追体験的な表現活動（中）

※　小学校（中学校）学習指導要領解説道徳編より